

## 三商レポート

### 第七話「言葉の力」

(株) 三商 内藤 雄

職業がら、仕事やお金や心の悩みを抱えた人から相談を受けます。人には「一人で悩まず相談しましょう。家族に打ち明けましょう」とアドバイスします。しかし、自分のこととなるとダメです。私自身、ここ数年仕事に行きづまりながらも、人に弱音を見せたくなくて自分の悩みを誰にも言えませんでした。孤独感と不安感が襲います。いたたまれず外に目を向けました。セミナーや講演会で人の話をたくさん聴きました。本も次々に読みあさりしました。特に元気の出そうな本を選びました。こうした人の話や本を通じて、成功した人やうまくいっている人には共通点があることを知りました。

それは、考え方が前向きで・肯定的で・楽観的であることです。そして何より「だいじょうぶ」「やってみよう」「これでいいのだ」「ツイてる、ツイてる」「ありがたい」「きっとなんとかなる」という言葉を使っています。決して「ダメだ」「もうおしまいだ」「つかれた」「運がない」など、後ろ向きで・否定的で・悲観的な言葉は口にしません。強く信じて、前向きで・肯定的で・楽観的なプラス思考の言葉を口にします。しかも、口ぐせになるまで口にします。そして、何が起きても「自分に必要だから起きたのだ。自分に解決できない問題など起きない。だから決してあきらめない」と言える人が幸せになっています。

まさに A さんがそうでした。正直で働き者の A さんは、バブル期に銀行の言うとおりに銀行から借金し、土地を買いマンションを建てました。しかし、バブル崩壊で不良債権化。結局、全てを処分せざるを得ない状況に追い込まれました。まず 2 棟を売却。70 歳を過ぎ病気を抱えた A さんは、会うたびに「せめて今住んでいるところは残したい。私は決してあきらめません。きっと何とかかなるはずです」と言い続けていました。そこで、親思いの息子さんが銀行から借入して買取る作戦に出ました。しかし、10 数行当たりでしたが融資を断られ続け、とうとう競売寸前に。ところが、断った銀行の営業マンがたまたま A さん宅を訪れた際にありのまま事情を話したら、「やってみます」と動いてくれて融資 OK に。息子さんが親のマンションを買取り、A さんの望みどおり我が家を守ることができました。本当に何とかかなりました。A さんを励ましながら、A さんのあきらめない姿に私のほうが励まされ、教えられます。

人に聞いた話でも、本の中の話でもありません。私の身近で現実には前向きな言葉を口ぐせにして頑張っている人がいます。気づいてみると、B さんもそう

でした。そして C さんまでもが前向きな言葉を口にして明るい顔で進み始めました。あらためて言葉の持つ不思議な力を実感しています。私も前向きで・肯定的で・楽観的な言葉を口ぐせにして人を励まし、自分も励まされながら頑張っていこう。自然とそう思います。

(2005 年 1 月 9 日)